

## 認知症と口腔機能研究会 第1回学術集会

テーマ： 認知症と歯科が交わるときー基礎と臨床の融合ー

会期： 2019年8月3日（土）、4日（日）

会場： 東京医科歯科大学歯学部4F 歯学部特別講堂

学術集会長 窪木拓男（岡山大学）

準備委員会委員 平井敏博（北海道医療大学）、姜 英男（大阪大学）、佐原資謹（岩手医科大学）

ーセッション1 “口腔機能と認知機能”（座長：窪木拓男先生）

#### 特別講演1

口腔機能と認知機能：大阪大学の文理融合型疫学研究から  
池邊一典先生（大阪大学）

#### 特別講演2

認知症462万人時代の実際  
真鍋雄太先生（神奈川歯科大学）

#### シンポジウム1 咀嚼機能と認知脳機能間の連関とその障害

- ①ストレス下チューイングのラット大脳における効果  
山本利春先生（神奈川歯科大学）
- ②ラット咀嚼機能障害による中枢神経機能への影響  
吉村 弘先生（徳島大学）
- ③咬筋から発現する $A\beta$  ペプチド分解酵素（Nepriylsin）がアルツハイマー病を予防できるか  
小林琢也先生（岩手医科大学）
- ④咀嚼機能と認知脳機能をつなぐミッシングリンクの探究  
姜 英男先生（大阪大学、ソウル大学）

ーセッション2 “高齢者における口腔機能不全と脳機能の関連”（座長：平井敏博先生）

#### 特別講演3

歯科と認知症ー訪問現場で出会う認知症の人と家族ー  
菊谷 武先生（日本歯科大学 多摩クリニック）

#### 特別講演4

身体活動量の低下と歩行機能低下が認知機能に及ぼす影響ーその疫学的知見と背景メカニズムー  
櫻井良太先生（東京都健康長寿医療センター研究所、社会参加と地域保健研究チーム）

#### シンポジウム2 “口腔感覚機能の加齢変化と脳機能”

- ①高齢者における嗅覚、味覚障害  
三輪高喜先生（金沢医科大学）
- ②高齢者の顎運動における口腔感覚入力への役割  
佐原資謹先生（岩手医科大学）
- ③加齢変化と嚥下障害ーコンピュータシミュレーションによるモデル化と解析  
道脇幸博先生（武蔵野赤十字病院）

ーセッション3 “アルツハイマー病における神経細胞変性”（座長：兼松 隆先生）

#### シンポジウム3 “アルツハイマー病における神経細胞変性のメカニズム”

- ①AD モデルマウスを用いた口腔機能関連脳領域の神経細胞変性機構  
後藤哲哉先生（鹿児島大学）
- ②Dementiaに伴う神経細胞死と関連する細胞内カルシウム動態（レビュー）  
谷村明彦先生（北海道医療大学）
- ③神経細胞変性時に認められる細胞容積変化に関与するイオンチャネル（レビュー）  
齋藤 充先生（鹿児島大学）
- ④Mechanism linking periodontitis to Alzheimer's disease: Critical roles of cathepsin B  
in neuroinflammation  
倪 軍軍先生（九州大学）

演題登録 2019年6月5日→7月19日（発表いただくには入会登録が必要です）

参加登録 2019年6月5日→7月30日（参加いただくには入会登録が必要です）

学会ホームページ <https://www.jrsdof.com>

事務局 E-mail office@jrsdof.net（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野内）

